

令和3年度第4回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和4年3月10日(木) 14:00～16:00
- 2 方法 Skype for Business を利用したオンライン
- 3 出席者 高田委員長、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員、
- 4 検討結果 大型の木材加工工場で原木の不足傾向が続いているが、一方で入荷や在庫は増加傾向にある。製材は季節要因から生産は落ち着いているものの、地域によって原木価格の高値が続く中で今後の原木確保に不安があるとの意見が見られた。また、国際的な状況が極めて不安定であり、外材をめぐる状況を注視する必要がある。以上の状況を踏まえ、引続き大型工場は原木の集荷に力を入れており、原木の引き合いは強い状況が続くと考えられることから、令和4年度事業の早期発注、早期に原木を市場へ供給できるような態勢を、国内外の情勢を注視しつつ整えるよう求める。
- 5 主な意見
 - (1) 合板・集成材は引き合いが強い状況が続いている。製材は季節的な需要の落ち込みに加え、価格の高止まりを受けて荷動きは落ち着いている。ただし、凍結による製材効率の低下により生産量も減少していることに加え、原木価格も上昇していることから、製材価格は大きく崩れることはないと思われる。
 - (2) 大型工場の原木在庫は増加傾向にあるものの、夏以降の原木不足を見越した在庫確保に動いており、原木の引き合いは強く、原木価格も高止まりしている。
 - (3) ロシアのウクライナ侵攻に伴う措置として、ロシア材についてFSC、SGECがともに森林認証材として認めないとする対応が通知される等、ロシア材に関する動向は不透明となっており、その影響を今後注視し、対応していく必要がある。
 - (4) 中国への原木輸出は合板工場の受け入れ価格の上昇の影響を受け、鈍化傾向にある。また、アメリカ向けの製材輸出に関しては、コンテナ確保難やフレートの高騰が続いていることから、出荷量が少ない状況が続いている。
 - (5) 国産材への需要が多い中で、原木の安定確保や供給量の増量が課題になっていることから、今年度のように国有林材の早期販売や供給量を増やす取り組みに来年度も取り組んでほしい。
 - (6) 最近の木材価格の上昇により、山林所有者も森林経営に関心を持つようになってきているように感じる。立木価格の上昇で再生林や森林整備が進めば、産業の持続性や山林の健全化にもつながることから、国有林には供給だけでなく価格にも注意を払ってほしい。